

基本目標Ⅴ | 地域資源・都市基盤を活かすまち

20 | 安全で円滑な地域交通

施策範囲 道路・公共交通

現状と課題

- 財政状況の厳しい中、道路整備に係る今以上の経費投入は難しい状況となっています。特に、市街地における舗装整備について、一部地域で遅れが見られる一方、橋梁などの道路施設の老朽化や劣化が進んでおり、これら施設の長寿命化対策やバリアフリー整備など、修繕や再整備に係る事業が増加します。また、冬期間の道路環境について、除排雪請負業者の経営環境や、除雪従事職員の人材確保が厳しい状況にあり、除雪体制の維持・確保が厳しくなっています。
- 厳しい財政状況を踏まえ、都市計画道路見直し方針に基づいて代替路線の必要性などを検討し、都市計画変更手続きを進める必要があります。
- 市内の公共交通ネットワークはJR千歳線、民間バス路線、えにわコミュニティバス路線により恵庭・恵み野・島松の3駅、公共施設を結びつけながら構成し、コミュニティバス路線を利用できない地域については、コミュニティタクシーで補完していますが、民間バス事業者の路線廃止の懸念や、効率的なバス路線の設定と市民ニーズの高まりがあります。
- 市営駐車場については、市民サービスの向上と収支の改善に向けた効率的な管理、及び利用拡大策の検討が必要となっています。また、駐輪場については、長期駐輪自転車・放置自転車の減少及び駐輪マナーの向上が課題となっています。

基本方針

- 少子高齢化・人口減少社会に対応した、利便性の高い道路整備、公共交通ネットワークの推進を図ります。
- 市民の利便性向上を図るため、将来の土地利用を見据え、円滑な自動車交通を促す道路整備の推進や、鉄道、バス等、各交通機関の特性を生かした、効果的な連携・組合せの仕組みを構築し、集約型都市構造を支える交通体系の確立、新公共交通システム※の構築に努めます。
- 生活道路整備については、事業効果がより効果的になるように、地域間格差の解消を意識した整備計画とし、今後も舗装率100%をめざす一方で、橋梁長寿命化対策及びバリアフリー特定道路の計画的な整備をめざします。
- 今後の道路の維持管理においては、適切な施設管理の実現のために、汎用性の高いデータシステムを構築し、情報の共有化、精度の高いデータ整備を図ります。また、雪対策・除排雪等において、市民と行政が一体となり、それぞれの役割を担う市民協働の体制により、安心して暮らせる冬の生活環境の形成をめざします。
- 駐車場及び駐輪場における、利用率の向上と利用マナーの向上を図るため、適切な管理や利用拡大策を行います。

前期計画の重点施策

- 20-1 除排雪の維持
- 20-2 身近な市民の足の確保（新公共交通システムの構築）
- 20-3 橋梁耐震化など生活道路の維持

成果指標	数値目標		
	現状(平成26年度末)	目標(平成32年度)	備考
雪対策基本計画の認知度(市民アンケート)	46%		
公共交通(コミュニティバス・コミュニティタクシー)の利用者数	25万人		

持続的なまちづくりの取り組み

- 都市計画道路の決定・変更
- 冬期の道路環境維持に向けた、機器の更新や堆雪場所の確保、市民協働による新たなパートナーシップの排雪制度の検討
- 道路維持管理に向けたデータ整理と、生活道路改良舗装事業、橋梁長寿命化修繕事業、バリアフリー特定道路整備事業などの実施
- 身近な足としてのコミュニティバス及びコミュニティタクシーの運行の継続
- 市民駐車場の効率的な管理及び利用拡大策の検討と、駐輪場及び駅周辺の長期駐輪自転車・放置自転車対策及び駐輪場利用者マナーの向上

わたしたちができること

- 道路環境維持に向けた、道路破損等の情報提供や清掃協力
- 冬期の道路環境に関する、除排雪方式への理解と、堆雪場所の提供、除排雪の障害となる違法駐車のパトロールなどといった除排雪の取り組みへの協力
- 身近な足としてのコミュニティバス・コミュニティタクシーの利用推進
- 駐車・駐輪マナー向上

個別計画

恵庭市地域公共交通総合連携計画 / 恵庭市駐輪場・駐車場計画 / 恵庭市雪対策基本計画 / 恵庭市橋梁長寿命化修繕計画 / 恵庭市橋梁耐震補強計画 / 道路付属物修繕(照明)計画

※新公共交通システム:現在、1ルートに再編したエコバスと、郊外でのコミュニティタクシーにより公共交通事業を実施しているが、ニーズに沿った新しい交通体系へと見直した公共交通事業。